

====このお便りは私が担当する太極拳教室の皆さんに8月を除き毎月お届けしております。====

トピックス アンケートにご協力有難うございました。

昨年12月からお願いした日本健康太極拳協会によるアンケートには各教室の皆さんにご協力いただきまして有難うございました。ご回答いただいたものを1月末に東京都支部に提出いたしました。いずれ全国各支部からのものもあわせて集計されその結果が発表されると思いますのでご期待ください。

健康妄語録 男性が短命な本当の理由！～その2

生物にはすべてオスとメスがあると思っていたら必ずしもそうではないのですね。「できそこないの男たち」(光文社新書・福岡伸一著)によると、地球上に生命が誕生してから10億年の間、生物の性は単一で、すべてがメスだったそうです。つまり母親のクローンが極めて効率的に延延と続いていたということです。その後地球環境の大きな変化が、それぞれの生物により環境に適応した進化を要求するようになり、ここではじめてオスが登場したわけです。著者の言葉を借りれば、“ママの遺伝子を誰か他の娘のところに運ぶ「使い走り」がオス”ということです。つまりAというメスが生んだオスa(Aの遺伝子を持っている)が、他の娘たちB、C、などと交尾することでAとBの、AとCの遺伝子がシャッフル(入れ替え・再編成)されることによって徐々に環境に適応する進化がなされてきたということなのです。



アリマキ(右の写真)というあぶらむし科の小さい虫は、現代において、メスだけの生態とメスとオスがいる生態を巧妙に使い分けているすばらしい生き物だそうです。草花の茎などにびっしりと張り付いているちょっと気持ちの悪い昆虫ですが、この繁殖はメスが無生殖でまったくのクローンの娘を成虫の形で産み、その娘がまた同様娘を産むというように高速で繁殖してコロニーを作るのが基本のパターンです。ちなみにその甘い排泄物を蟻が好み、寄ってくることで、天敵のてんとう虫などからアリマキを守ってやるという互惠関係が図らずも生じる場所から、アリマキ(蟻牧=アリの牧場)と命名されたそうです。

このアリマキは冬が近づくと年に一回だけオスを生みます。オスはそこらじゅうを走り回ってメスと交尾します。と、不思議や、このときだけは受精卵が出来るのです。この受精卵は冬の厳しい環境に耐えられるようなところに産み付けられます。冬が来ればすべての成虫は死に絶えますが、春には、遺伝子がシャッフルされた新しいメスたちが誕生してまた基本パターンに戻って高速繁殖するというわけです。このような遺伝子のシャッフルの繰り返しで、少しずつ進化を続けるのがアリマキの人生ということです。メスが本体であり、オスは“使い走り”に過ぎないことがよく分かります。

著者の福岡伸一先生はこうした生物学的な事実を踏まえて、相当強烈なことを述べておられます。いわく、“ボーヴォワール(女性運動の旗手、フランス人、サルトルの「妻」)は「人は女に生まれるのではない、女になるのだ」(第二の性)と宣言したが、これは生物学的には明らかに間違っている。こう言い換えられるべきだ。『人は男に生まれるのではない、男になるのだ』と。”

また、いわく、“「アダムがその肋骨からイブを作り出した」(旧約聖書)というのはまったくの作り話であって、『イブたちが後になってアダムを作り出したのだ。自分たちのために』と。”

女性と神様に対する過激な挑戦状みたいで、ちょっと心配ですね。先生無事に済むのでしょうか。

左顧右眄～さこ・うべん～ (24) 【第3話 ^{りてんき} 李天驥先生のこと】

4. 日中友好への貢献

話は遡りますが、1959年10月「新中国成立10周年」を記念して日本貿易代表団が訪中した折、団長松村謙三氏、副団長古井喜実氏などが太極拳を勉強したいと所望したので、周恩来首相のお名指しで李天驥先生が講師として、滞在中にホテルで「簡化二十四式太極拳」をお教えしたそうです。

松村団長は日本で太極拳を普及させることを約し、「掛図」が李天驥先生から贈られました。その後も日中貿易協定（いわゆるLT貿易）などの交渉で、とくに古井喜実氏は頻繁に訪中されるのですが、その都度、李天驥先生から熱心に太極拳を習い、また日本にあっては太極拳普及のための組織作りに奔走されたのです。

さらに話は続きます。1966年から始まり、1976年に毛沢東の死とそれに続く江青ら4人組の逮捕で終焉した文化大革命では、太極拳や他の中国武術もその弾圧と破壊の対象から免れることは出来ず、当時中国武術協会副秘書長という高い位にあった李天驥先生ですら、先生の言をお借りすると“1969年には、私は多くの体育幹部の人たちと同様に思想改造のために山西省にある小さな農村へ強制下放（強制労働のこと）させられた。不幸な年でもあった。”という状態だったのです。“この間日本から来られた古井先生が「李天驥先生はどうされているのか、お会いして太極拳を教わりたい」と言い続けてくれたおかげで、周恩来首相が、早く元の職場に戻すように手を打ってくれた”とも書いておられます。（自著・太極拳の真髓 p262）いかにも当時の中国らしい逸話ですが、まさに太極拳が日中友好の一翼を担っていたからこそとも言えます。

ちなみにこの古井喜実氏は1968年には日本太極拳協会を設立して初代理事長を務めました。また日中双方の出資によって1988年に建設された「日中友好会館」（東京・飯田橋）の初代館長に就任されることともなります。そしてそこに開設された太極拳教室の選任講師には李天驥先生のお嬢さんである李徳芳女史とその夫君があたられることになるわけです。

また、李天驥先生は1980年に来日された折、楊名時先生とお会いされておりますし、1986年には楊名時太極拳友好会（当時）第12回総会に特別ゲストとして出席されております。また楊進先生が李天驥先生の内弟子として修行を積まれたこともたいへん有名です。

李天驥先生は1979年には「武術国家レベル審判員」の称号を、また1987年には「新中国武術開拓者」という、まさに先生にふさわしい称号を受けておられます。1996年に満82歳で亡くなりましたが、生涯を太極拳の普及、中国武術の発展、そして日中友好にささげられた偉人です。（つづく）

旅をうたい拳を詠む NHK短歌大会出場ならず！

さる1月24日に開催された平成20年度NHK短歌大会にかねて応募しておりましたところ、下記の3首が入選し、そのうちの1首が三枝昂之、玉井清弘の両先生によってさらに「秀作」に選ばれましたが、いま一步で「特選」には届かず、残念ながら3年ぶりの大会出場を果たすことは出来ませんでした。

秀作 「部品です感情のある部品です」と組み立てラインの臨時工言う
入選 死ぬるまで定点観測続けむか六道木の咲くさま散るさま
入選 ほとほとと花落としつつなおも咲くアンコールワットの火炎樹哀し

=====

お知らせ 日本健康太極拳協会東京都支部のホームページにアップされているこの『雲の手通信』を、すべてPDF化していただきました。これにより、同ホームページからのコピーが元データそのままに鮮明に出来るようになりましたので、どうぞご利用ください。